

●けんちくつれづれ草 第185回

「人新世」時代の建築と文化的持続可能性

●お知らせ

令和4年度 助成対象「地域貢献活動」募集

令和4年 建築士試験案内

●京都を彩る建物や庭園 第9回

建物と土木工作物 京都市文化財マネージャーの視点

●作品紹介 京都美術工芸大学 東館 戸田建設(株)大阪支店

●報告 重要文化財「旧三上家住宅」を活用する

●特集

第12回 高校生の「建築甲子園」 舞鶴工業高等専門学校が優勝!!

●支部だより 行永家住宅の床刺し

●うちの本棚・今月の一冊 『やさしい文学レッスン』

●表紙のごとば 『長楽館』

京都

だより

Kyoto Dayori



つれづれ草

2021年は、様々な分野で「人新世」という言葉が飛び交った年であった。同年の新書大賞（中央公論社）を受賞した斎藤幸平著『人新世の「資本論」』（集英社新書2020）は、2016年に同賞を受賞した井上章一著『京都ざらい』（朝日新書2015）をはるかに上回る30万冊以上を売り上げたという。その背景には、地球規模の感染症パンデミックの中で、その一因でもある人による経済活動の地球環境や社会に対する影響が限界（Planetary Boundaries）に達してきていることを多くの人々が感じ始めてきたことがあった。

「人新世」は、斎藤幸平の著書では「ひとしんせい」と読ませているが、「じんしんせい」と読まれることも少なくない。Anthropocene（アンソロポシーン／アントロポセン）の日本語訳で、人の活動が地質に重大な影響を与えてきた新たな地質年代の時代区分として、オゾンホールの研究でノーベル化学賞を受賞したオランダのパウル・クルツェン Paul Crutzenらが2000年に提唱して話題となった。（Anthropoceneという用語自体はアメリカの生態学者ユージンF・ストーマー Eugene F. Stoermer による1980年代の造語とされる。また、ソビエト連邦では1930年代に初期概念が築かれ、1960年代にはこの用語が用いられていたという説もある。）

一方、2021年の夏、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第6次評価報告書の第一作業部会（科学的根拠）報告書が発表された。そこでは、「地球の平均気温上昇を産業革命前に比べて15度に抑える」というパリ協定が掲げる目標実現への緊急性が極めて高いことが改めて明らかにされた。しかも、「残余のカーボンバジェット」（排出可能な二酸化炭素）はおよそ3,000〜4,000億t-CO₂（67〜83%の確率）しかないことが具体的に示された。これは、今後、約10年間で二酸化炭素排出量を半減することができな

ければ、15度を超えて気温が上昇してしまい、熱波や豪雨、海面水位上昇などにより、多様な生物の絶滅や激しい災害にも見舞われる本当に深刻な事態を意味するのである。

この状況に対して、国連が提唱し、日本をはじめとする多くの国、自治体、民間企業や団体が連携して取り組んでいるSDGs活動などは「焼け石に水」だとか、「免罪符」に過ぎない、果ては「大衆のアヘン」という批判までもが生まれている。しかし、SDGsは、グローバルな視点を備え、環境の目標だけでなく、経済、社会などに関する多くの目標の同時的実現を目指す数少ない取り組みであり、より強力な環境対策や社会システムの抜本的見直しに向けた重要なステップとなるという理解も可能である。

加えて、複数の目標の同時的実現は、われわれ建築士の職能の本質に関わる。建築という言葉は、英語の architecture の日本語訳とされるが、それを遡っていくと古代ギリシャ語のアルキテクトニケ・テクネ *architektoniké tékhnē* に辿り着く。これは、万物の根本原理を司る匠の技、つまり、建築士に求められる総合力のことであり、一見対立するものも含めて、複数の目標を同時に実現する技術と言えるものである。考えてみれば、われわれ建築士は、「公と私」、「継承と変化」、「安全と自由」など、一見同時的実現が困難な問題に常に向き合っている。SDGs活動ではこの能力こそが求められているのである。

ただし、現行のSDGsは、経済的、社会的、環境的持続可能性に関わる目標設定としては妥当かもしれないが、文化的持続可能性の視点が希薄である。それゆえ、われわれは京都府建築士会の活動のミッションを「文化的持続可能性を含めたSDGs+（プラス）活動の推進」と再定義し、とりわけ、環境的持続可能性と文化的持続可能性の同時的実現をめざす建築のあり方を模索してきた。

確かに、今日の環境問題は上記のように極

めて深刻である。しかし、人は環境破壊だけを重ねてきたわけではない。自然と人との相互浸透の中で、人は自然から多くを学び、自然と関わる豊かな生活文化を蓄積してきたことも忘れてはならない。安易な環境技術で見かけの問題解決を図るのではなく、環境と共生する生活文化を見直し、それを継承・発展させることができる建築のあり方を深く考え、その実現に努力することこそ「人新世」時代の建築士や建築士会の役割ではなからうか。そして、とりわけ、こうした生活文化が数多く継承されている京都で活動するわれわれ建築士にはその責務があると強く感じるのである。

なお、こうした取り組みは、近年EUで進められている「新欧州バウハウス New European Bauhaus」（図参照）の考え方とも呼応するところがある。これらが、グローバルな視点からも、環境政策における建築の位置付けや建築士の役割を問い直す契機となることを願っている。



New European Bauhaus
beautiful | sustainable | together



「人新世」時代の建築と文化的持続可能性

たかだ・みつお

1951年 京都市生まれ
京都大学工学部建築学科卒業
博士(工学)・一級建築士
(一社)京都府建築士会 会長
京都大学 名誉教授
京都美術工芸大学 教授

Event 2022 Calendar

4 ← 3

Exhibition
Seminar
Symposium
Event

お知らせ

令和4年度 助成対象 「地域貢献活動」 募集

募集期間
令和4年3月1日～31日

京都まちづくり
地域貢献活動センター

「京都まちづくり地域貢献活動センター」は地域のまちづくり活動を支援いたします。
詳しくは、(一社)京都府建築士会ホームページをご覧ください。か、地域貢献活動センター委員会までお問い合わせください。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

(一社)京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧ください。

<事業に参加される方へ> 新型コロナウイルス予防のために

- ・感染拡大の状況により事業を中止または内容を変更することがあります。
- ・参加される際は必ずマスクを着用してください。(熱中症などの対策が必要な場合を除きます。)
- ・37.5℃以上の発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は参加できません。
- ・事業実施中は係員の指示に従い、手指の消毒や手洗い、対人距離の確保(推奨2m、最小1m)など、基本的な感染対策にご協力ください。
- ・係員の指示に従わない場合は、参加をお断りする事があります。
- ・感染拡大防止のため、連絡先の登録や接触確認アプリのインストールにご協力をお願いします。

お知らせ

令和4年 建築士試験案内 一級・二級・木造 建築士試験

※令和3年より、受験申込は原則として「インターネットによる受付」のみとなりました。

なお、インターネットによる受験申込が行えない正当な理由がある場合(身体に障がいがありインターネットの利用が困難である等)には、別途受付方法をご案内いたしますので受付期間に間に合うよう、公益財団法人建築技術教育普及センター本部までお問合せください。

【インターネットによる受付】

●期間：4月 1日(金)～
4月14日(木)

【試験日】

一級：
学科試験／ 7月24日(日)
製図試験／ 10月 9日(日)

二級：
学科試験／ 7月 3日(日)
製図試験／ 9月11日(日)

木造：
学科試験／ 7月24日(日)
製図試験／ 10月 9日(日)

※詳細は、
建築技術教育普及
センターのホーム
ページをご覧ください。

<https://www.jaeic.or.jp/>



3 March

- Wed 2 監理技術者講習
Sat 5 第9回京都建築賞
受賞記念発表会(オンライン)
Mon 7 常任理事会
Sat 12 茶室設計勉強会(第4回)
Tue 22 支部長会議・理事会

4 April

- Fri 1 一級・二級・木造建築士試験申込受付
(インターネットによる受付のみ)
(4/1～4/14)
Sat 2 若手建築家セミナー
Mon 4 常任理事会
Sat 16 徳島・鳴門・淡路の建築を巡る旅
(令和4年度国内研修旅行 4/16～4/17)

※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

(一社)京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
<https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp>
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

建物と土木工作物

京都市文化財マネージャーの視点

永松 尚



ながまつ・たかし

スクール・アーキテクツ 一級建築士事務所代表
京都市文化財マネージャー（建造物）
認定NPO法人 古材文化の会理事

「京都を彩る建物や庭園（以下、京彩）」制度と京都市文化財マネージャー（以下、文マネ）の関わりについて、9回目となる今回は、これまでの調査例の中から、解き明かせなかったことが印象深い例をピックアップしながら、同時に直面した土木工作物の実情についても触れてみる。

そば茶寮 澤正

そば茶寮澤正の建物は、今熊野剣ノ宮町に建つ。

東大路を泉涌寺道の交差点を二〇〇メートル程北上したT字路から東向きに緩やかな上り坂を数分ほど登ると、左手に町名の由来となった剣神社の境内が見える。道向いの家並みの前から右手に分かれる脇道を少し下ると目の前に小さな谷と南北に架けられたコンクリート造の小橋（圓通寺橋）が架かり、対岸の崖の上には小さな洋館を構えた屋敷が見える。崖には季節によって枝葉がその姿を覆うほど樹々が多い。小橋の先の坂道を上るとその屋敷に辿りつく。現在、そば茶寮澤正が所有し、一九二七（昭和二）年に実業家・岩坪熊次郎が建てた邸宅の接客棟を今に伝える建物である。

岩坪熊次郎は、出自の詳細は不明であるが、一八七九（明治十二）年頃、松原高倉の金箔商・岩坪五兵衛の婿養子となり、後に分家して貿易商を営んだ。事業が盛況で

（京都大学名誉教授・登山家）が住まわれている。

一方、澤正は、一九〇九（明治四十二）年、万寿寺通麩屋町において菓子店として創業した。戦後今熊野宝蔵町に移り、初代が南蛮菓子を中心とした菓子店として、そばぼうろが親しまれ、商標登録を得るなど、今日まで「そば菓子処澤正」として歴史を持つ。

現当主は、三代目澤田正三氏である。正三氏は、宝蔵町の店に近いこの地に放置されていた岩坪邸の遺構の価値を早くから理解していたが、解体撤去の計画を知り、二〇〇二（平成十四）年に購入し、会席の店として始めたのが、そば茶寮澤正である。

開店にあたっては、老朽化した内装や厨房設備や水回りの新設を施しているが、構造体と間取については大きく変更はない。迎賓のために建てられたため、客を招く空間としてフィットしたのだろう。

外観は概ね当初のままで、大屋根は入母屋造で棧瓦を葺き、外壁は聚楽を用いた真壁造とし、東側妻面に小さな入母屋を設け玄関を構える。この北側に隣り合う洋館は陸屋根で外壁はカナリア石を骨材とした上質な人造石洗い出しで施している。

玄関に踏み込むと、三畳の和室が取次ぎ、廊下が接する。原形は四畳であったが、北側の押入を便所に改め、南側の一畳分は改修によって厨房に取り込んだ。

廊下を右手に進むと半畳の踏込みを介して奥が洋室、左手が茶室である。

洋館はこの洋室一室であるが、劣化による損傷が顕著であったため、既存のディテールに配慮しながら全面改装を施した。壁紙の貼り替えの際、貿易商当時の覚書きを用いた下貼りが出てきたり、床については改修業者が感嘆するほど精緻な寄木パーケットであったという。換気窓と一体的に幾何学的な棧を組んだ両開きの窓や瀟洒な曲線で模ったカーテンロッドの持ち送り等

は、当初のまま使用しており、当初の雰囲気を持している。

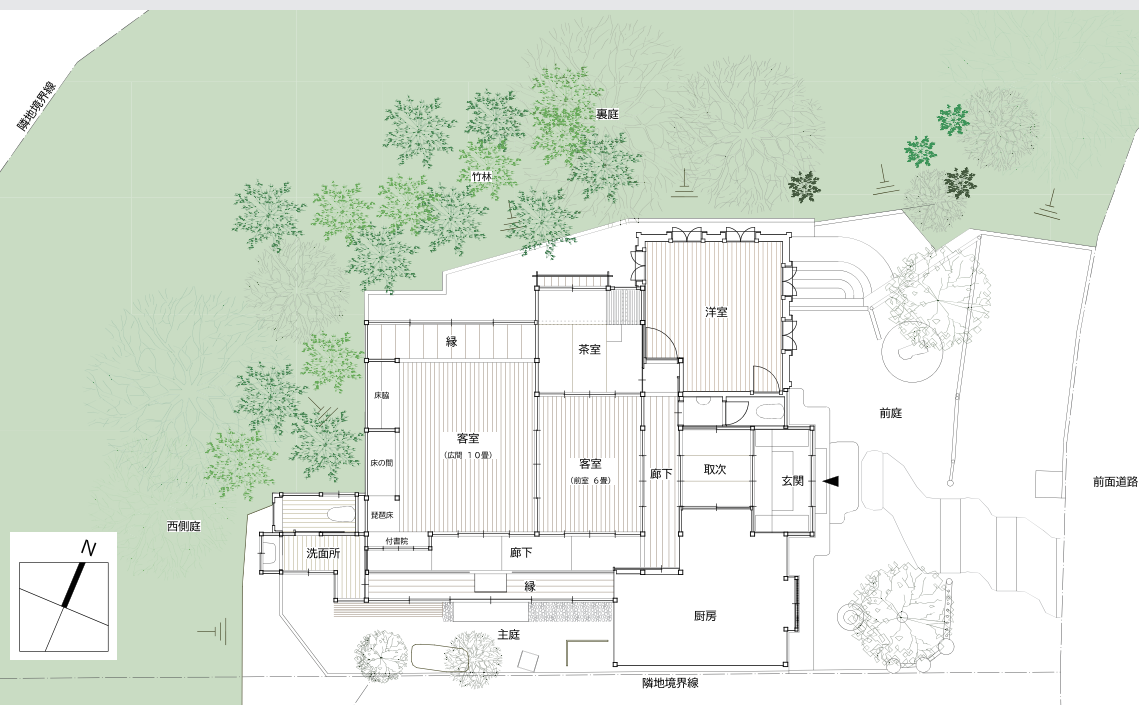
茶室は方丈の平面で、拳大の節を見せた杉の節目板を平天井に張り、外部側の北側半間を晒竹の垂木を掛け竹の矢羽網代を化粧裏板とした掛込天井とし、壁留の無い暖簾壁が仕切る。四畳、向切逆勝手、風炉先床の間取の構成とするが、床柱を立てた枳床ではなく、袖垂壁を方杖状に架けたシャレ木で留めた釣床で、地板は半畳大の樺の一枚板である。北面は床の間に墨蹟窓を設けているが、残りの一間間口も腰窓とし景色を堪能することを優先にした茶室である。踏込からの出入口は客の出入り配慮し、低い茶道口を取り止め、他の内法高に合わせた高さとした。

広間には玄関取次から左に回り込む。南側が庭に面した畳敷の片側廊下である。外部側に高覧が付き、一尺ほど下げてやや幅が狭い板張り縁が並行する。庭を意識した設えで、現在の狭小な庭とは異なり、岩坪邸時代は広い中庭を眺める回廊のように同様の廊下が南向きにも延伸し、浴室等を経て主屋とを結んでいたという。

広間は六畳大と十畳大が東西に並ぶ。いずれもテーブル席とするため床を縁甲板に改修した。隣の座敷や茶室の前室であった六畳客室は北面の襖を開くと茶室と併せた贅沢な接客空間となる。

十畳客室はこの建物で極めて特徴的である。天井は、廻り縁から一尺ほど内側に廻した平たい幅広の見切り枠の外側の鏡板を長尺の一枚板とし四隅のみ吹寄の竿で押え、内側は同様の長尺板を目透かしに一寸ほど高く張り、これら天井材の全てに桐材を用い、廻り縁や見切り枠には大きめの丸面取りを施している。折上天井と似て非なる幾何学的なモダンな天井である。

柱は四寸角の桧を建て、四周には桐の長押を打ち、西面には付書院を持つ一間半の



そば茶寮 澤正 平面図
(「認定候補調査報告」添付図を筆者が修正加工)



〆圓通寺橋、より



客室(広間 10畳)



茶室



正面外観



北西側擁壁



北西側擁壁



北西側擁壁
頂部垂直面に亀甲紋様の目地

琵琶床と狎潜りを開けた仕切壁で隔て一間の床脇が並ぶ。畳床には天端のみ塗りを施した桐材の床框を設け、更に琵琶棚や付書院の甲板にも桐材が使用されている。

琵琶束直上の絞り丸太の吊り束以外は、全体的に角材のみで締まりのある感もあるが、桐の部材の表情から柔らかな落ち着きも感じとれる。北側の広縁も客室に一体化しており、広い窓から取り込む風景は屏風画を想起させ、上質感を更に醸成させる。

以上が旧岩坪邸接客棟Ⅱそば茶寮澤正の空間である。小屋裏に残された御幣には、
「頭梁 大工 伊藤安次郎」と記されている。店主正三氏には「評判を博した宮大工」と伝えられた。前述の五郎氏は、熊次郎より「当時、最高の材料を最高の職人が手掛けた」と共に、当時は座敷であった客室に用いられている多くの桐材について、「伊

勢神宮より下賜された撤下古材」との説明も受けている。

これらの点については、認定調査において確認を必要とした。直近の第五十七回式年遷宮は一九〇九（明治四十二年）であり、接客棟上棟の十八年前にあたる。その次が上棟の二年後であるが、内部造作までその間を要したことも屋敷全体の規模から想像できなくもないが、竣工時期は特定できず、小屋裏の天井板裏面の埃を除去し、墨書等の有無も確認したが根拠には辿りついていない。

原則的には、撤下古材が神社以外の民間に譲渡されることは殆どない（明治二年、伊勢神宮内宮近くでゆかりの深い料理店に唯一の例がある）ことから、「宮大工」伊藤安次郎が鍵を握ると思われるが、普請当時、下京区材木町に伊藤安次郎という

名の材木商の存在の確認に留まった。このように、未解明な部分も残したが、大正から昭和初期にかけて多く見ることができ郊外形で洋館を付設した和風建築という家屋形式において、当初の外観を残し、内部においては上質でややモダンな意匠を意識した和館とアール・デコの要素を持つ洋館部分が同調したものとしての価値がある建築と位置づけ、二〇一六（平成二十八）年に報告書を提出した。

更に、旧岩坪邸接客棟Ⅱそば茶寮澤正の建物には特筆すべき点がもう一つ存在する。冒頭に説明した谷は、現在は暗渠となっている。一の橋川の上流からの勢いのある流れが山を穿ち崖を形成した。敷地内の建物の北側から西側にかけて足元は、その崖を補強するためコンクリートの擁壁が施されている。形状は段上の積み上げる現在

の箱型擁壁のようにも見える。各段には竹や樹々が生え（植えられ）ており、景観面や室内から眺めとしては絶大な効果を得ているが、樹根の成長は箱型躯体を損傷させている。割れた部分から無筋を確認したが、バットレスのようなリブにはクラック等は見つからないため鉄筋を入れるなど力学的に考慮されていると考えている。

御幣表側の棟梁の下に、「手傳 金子寅吉」と並んで「土工 荒川卯之助」と記されている。擁壁を担った人物と推察する。当時は東大路からの道は車は通らず、資材運搬は牛馬に牽かせたことや建屋の大工工事が始まるまで着工から二年を擁したなどの歴史が伝わる擁壁である。

また、認定後、擁壁頂部と一体化した基礎の表面に刻まれた亀甲形の目地を確認した。予期せぬ意匠の発見である。

長谷川家

京都府自動車運転免許試験場から、徒歩十分分ほど南に進むと羽束師神社に辿りつく。境内前の道から試験場までを南北とし、東西は桂川から概ね東海道新幹線の側道手前までの広域が羽束師古河町であり、西羽束師川以西に住宅が集中している。一帯は田圃が広がる農地であったが、昭和四十年頃から現在に至るまで宅地化が進む新興住宅地である。長谷川家の屋敷地は、その中で町域を中央で横断する府道79号沿いにわずかに残る古い集落の東端に位置する。集落には、菅原道真が大宰府へ左遷される際、都のある北の方を見返したとの伝説が残る「北向見返天満宮」も祀られている。

長谷川家は、代々小作を雇いながら、自らもこの地で農業経営に従事する耕作地主であり、屋敷は、棟札によれば一八八七（明

治十）年の上棟である。建築主と伝わる作左衛門は古川村（当時）の総代や年寄りを務め、明治から大正中期には他の事業も営み、昭和初期には次代・吉太郎氏が古川町公会堂建設の際、他家と合同で土地を地域に貸与するなどした（平成二十八年、寄付）。長谷川家はその後離農し、作左衛門より数えて四代後となる現当主安信氏は会社社員を経て造船、重機操縦に従事した。三十年余居所を別にしてきたが、二〇一二（平成十九）の改修後、再び住まわれている。

更に二〇一二（平成二十四）年、敷地南東隅の異蔵を解体し、主庭の様相を変え、主屋も南側妻から張り出した便所を撤去し玄関の開口を設け、台所廻りを刷新するなど広範囲に改修が施された。改修前は、七つの釜口を持つオクドサンが据えられ女中部屋も二室あったという。

北端の奥座敷等は改変されていない。天

井の屋久杉を漆塗の竿縁で押え、長押が打たれている。北面の床の間、床脇には、床柱に紫檀、落し掛けや壁留めに鉄刀木、床框に黒柿など豪華に備え、付け書院の障子の棧や欄間も七宝模様で組み、外部同様に細かく見せ、縁川の掛込天井の小舞が菱形に組まれているのも珍しい。

一方で外部には遺構としての特色が十分に残されている。つし二階の外観は、棟に煙出しを載せた棧瓦を葺いた入母屋造の大屋根を掛け南面を重ね妻としている。細部の瓦に特筆すべき点があり、風切丸を吹寄せに通し、短い袖瓦を用いて垂が小刻みに続くように見せ、壁と取合う全ての部分に

松皮菱熨斗瓦を重ね、漆喰を塗り込むことでその細かな形をより強調している。煙出しの屋根に至っても同様に風切丸を設け、蟻羽に石持掛瓦を用いるなど、精緻で重厚な外観を見せている。二階外壁の軸柱に設

けた持送りが大屋根の軒を支えている。改修によって南側が玄関となつていますが、本来は東側の中央に袖壁を建て、前述と同様の細かな意匠の入母屋屋根を持ち出し式台玄関を持つ平入である。現在は窓に改修されているが、軒天に扇垂木を掛け、正面の柱間には虹梁が渡り幕股が載る。

この南横に営ては、楣を鳥居形に象つた大戸があった。南側に玄関を移設した改修の際に切断した大きな窓を設けたが、両側に張り出した笠木をそのままに柱を残しているため、その痕跡は十分に確認できる。

以上に述べた長谷川家の外観の特徴は、二〇一八（平成三〇）年度の認定調査時の考察は、建築年代に起因するものか、或いは地域的要因が潜んでいるのか、我々文マネとしては難易度の高いものとなった。多彩な瓦を使用した重ね妻、宮津大工が得意とした扇垂木、上賀茂の杜家町や他の神社



南側外観 拡大 (撮影：金城泰哲)



南側外観 重ね妻。(撮影：金城泰哲)



上空からの長谷川家前掲(平成13年)
(長谷川家所有写真)



北側外壁 嵩上げ部分の地盤沈下 傾いた石積みの頂部を補修



旧式台玄関
扇垂木の軒天井
(撮影：北條順子)



現在 解体撤去後



同年10月 台風21号の被害
乾 蔵



2018(平成30)年8月



周辺集落の街路
全て石積みで嵩上げされている

【土木というハードル】

でも神職の屋敷等では見ることが出来る櫓を鳥居形とした内玄関等、この地域のみならず京都市内でも農家民家としての類例は見当たらない。長谷川家の他地域や神社との関係も、安信氏によれば特に記録はないという。建築主の意向、或いは大工が趣向を凝らした結果かといった推察にも議論が移行したが、棟札に記されている棟梁・岡田八右衛門についても情報を得ることができなかった。結果として、未解明ではあるが拘りのある旧来からの意匠を備え、石垣で嵩上げた敷地に建つ屋敷構えは、地域の景観保全に寄与するとして、二〇一九(平成三十一)年、報告書を提出した。

さて、この石垣による嵩上げについての問題を次に示す。

前々項のそば茶寮澤正の擁壁について、当初は、昭和初期以前のコンクリート擁壁として何らかの価値づけができないかと考えた。擁壁の歴史的評価として登録文化財も存在するが概ね煉瓦や石積みの構造で、鉄道や発電所関連施設である。個人所有の宅地内のコンクリート擁壁を価値づけたもの、及びそれらの維持管理を助成する制度については類例を探しきれない。

一方で安全面に関しては、擁壁や基礎のクラックの影響について、認定調査直後では床や柱の傾きが生じていないことを確認したが、擁壁の調査については、構造体の補強を生業としている文マネによる見積もりの照会に留まっている。調査業務が京彩制度の助成金の対象でないことも遠因であるが、実際に補強等の工事を実施するとなつた場合の費用を考えると現実的ではなかったが、文化財マネージャーとして、これ以上踏み込むことは難しかった。

長谷川家においては更に逼迫した問題に直面している。古来より昭和期まで桂川右岸一帯に広がる低湿地帯は水はけが悪く、氾濫に脅かされてきた。水害に備えた嵩上げのための石垣は集落景観に寄与しているが、一世紀以上の年月を経て、地中で土砂の流出が始まっている。主屋北面には地盤沈下との戦いの痕跡を見ることが出来る。

近年、更に追い打ちをかけられた。主屋の北西角に付属していた乾蔵は前述の嵩上げ地盤の弱体化で元々大きく傾いていたが、二〇一八(平成三〇)年六月に発生した大阪府北部地震により一部の漆喰が剥落し、これが起因となり同年九月の台風21号の直撃を受けた際、南面全体の漆喰が剥落し、屋根も損傷する被害を受けた。しかし、土蔵は生活施設ではないという理由で罹災証明が発行されず適切な支援制度や保険の適用が受けられない。壁の損傷は耐震性能の低下に繋がる。過去に傾いたまま板壁が改修されていたことも一因ではあるが、倒壊すれば隣地にも影響を及ぼす。斯くして乾蔵は解体され、長谷川家の屋敷構えから土蔵が消えた。

この乾蔵については認定調査時に、対策を検討したが、流動化や歪んだ石垣の復旧等については、膨大な費用が必要とされ、策を講じるまでには至らなかった。

歴史的建造物に付随する土木的要素は、相応の価値を持つと考えられるが、同時にそれは、老朽化と安全確保が喫緊となる。我々文化財マネージャーにとって、まだまだ経歴を必要とする高いハードルでもある。

●参考資料

＊京都を彩る建物や庭園。
認定候補調査報告書
そば茶寮 澤正

＊京都を彩る建物や庭園。
認定候補調査報告書
長谷川家

●取材協力(敬称略)

そば茶寮 澤正
澤田正三氏
長谷川家 ご夫妻

※撮影者名のない写真は
筆者撮影

京都美術工芸大学 東館

京都市東山区

本建築は京都市内の京都美術工芸大学京都東山キャンパスに建設された多目的ホール・教室棟である。

日本初の学区制小学校校群「番組小学校」の一つ、京都市立貞教小学校跡地を利用して設立されたキャンパスでは、現在も地域の行事が行われており、その交流の場となる中庭を囲うように校舎群が配されている。本建築はその一画、中庭と住宅地・町家に挟まれる場所を敷地として、地下／多目的ホール、1階／エントランスロビー、2・3階／教室、4階／制作・研究スペースを設けた。中庭に面した大階段を主要動線とし、既存校舎とは2階で連結した。重視したのはキャンパス内外の諸要素との連続性である。前述の中庭から最上階までを繋ぐ大階段、通路の延長としての制作・展示・談話空間、そして、周囲の様々な様相を望める各室の開口部へ続く。芸術を育む思索・制作の場は、学生同士の現在的な語らいと、地域や歴史、文化、自然との語らいの合間に在ると捉えたのである。

（京都美術工芸大学 人見将敏）

建築主／学校法人 二本松学院
設計者／戸田建設(株)大阪支店一級建築士事務所
林 伸昭・山本恭代・数澤魁斗
基本計画・デザイン監修／
川北 英・杏 義啓・小槻吉隆・人見将敏
(京都美術工芸大学)
施工者／戸田建設(株)大阪支店

所在地／京都市東山区鞘町通正面下る上堀詰町
用途／学校（大学）
工期／2020年3月～2021年4月
建築面積／1,157.51m²
延床面積／4,563.94m²
構造規模／地上：鉄骨造
地下：鉄筋鉄骨コンクリート造
地上4階、地下1階



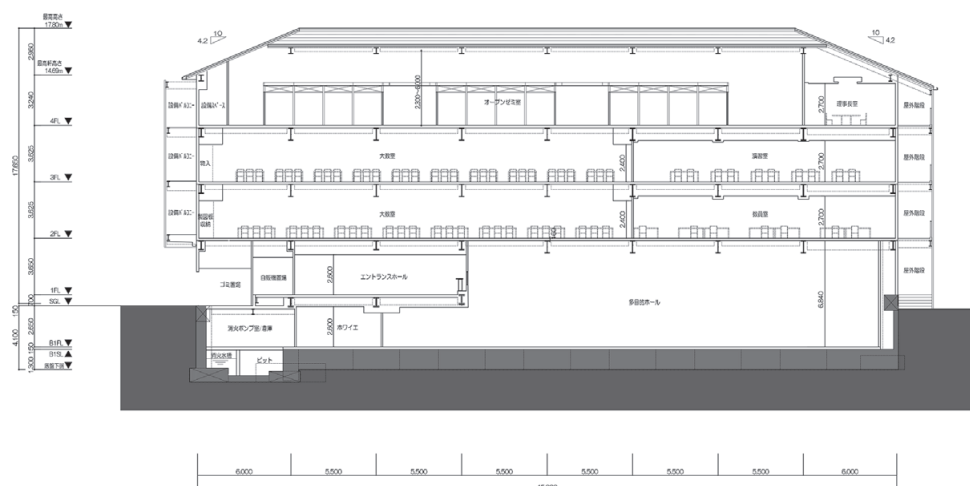
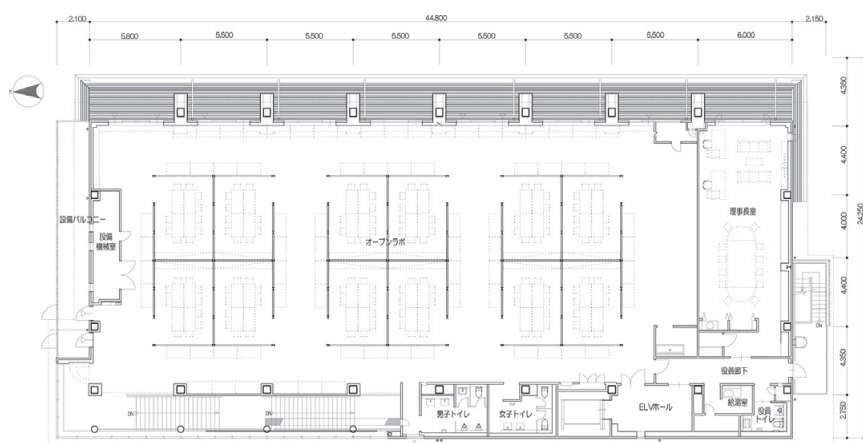
外観西面



2階 談話コーナー



地下1階 多目的ホール



重要文化財「旧三上家住宅」を活用する

三上家は屋号を元結屋^{もとむすい}と言ひ、髪を結ぶ「こより」の製造・販売を手掛けていたと言われています。江戸時代において官津城下有数の商家のひとつで、酒造業・廻船業・糸問屋を営む一方で、官津藩財政や官津城下の町政に深くかかわってきました。1776（安永5）年に現在の地に屋敷を構えたのですが、1783（天明3）年に「更^{さら}屋火事^{しなかし}」により焼失しましたが、同年再建された建物が現在の主屋です。

その後、座敷・土蔵・玄関・酒造施設を順次増築し現在に至ります。火災の経験から主屋再建の際、軒裏外壁等漆喰で塗りこめられ、出入口や窓も土蔵のように漆喰の扉があります。又内部においても防火戸で区画できる構造となっています。又主屋の屋根は入母屋造の妻入、垂木は放射状の「扇垂木」で漆喰塗り仕上、耐火性能と共に優美な外観です。

1838（天保9）年には幕府巡検使の本陣となり、1868（慶応4）年には戊辰戦争の際の山陰道鎮撫使・西園寺公望の宿所となりました。

「幕府巡検使」

巡検使とは、江戸幕府が諸国の大名・旗本の監視と情勢調査のために派遣した上使のこと。大きく分けると、公儀御料（天領）及び旗本知行所を監察する御料巡見使と諸藩の大名を監察する諸国巡見使があった。

「山陰道鎮撫使」

明治維新にいて、新政府側に仕えるか幕府に仕えるか未だ定まらない地方に出陣。

「西園寺公望」

戊辰戦争において官軍の山陰道鎮撫総督を務め、フランス留学後伊藤博文の腹心となった。第2次伊藤内閣にて文部大臣として初入閣し外務大臣を兼任、第3次伊藤内閣でも文部大臣として入閣した。また、教育にも尽力し、自らが創設した私塾立命館は現在の立命館大学の礎となった。

NPO法人 天橋作事組 副理事長
旧三上家住宅 館長
京都市文化財マネージャー第9期
（社）京都府建築士会 丹後支部長
岩田信一



外観



扇垂木



外観夜景



庭夜景



大玄関



庭座敷



庭座敷



庭



庭



庭



ちりめん装飾



酒造蔵研修



ライブ

平成元年に京都府指定文化財に、平成15年に重要文化財に指定されました。又1837(天保8)年に増築された庭座敷から見える日本庭園は、平成12年に京都府指定名勝に指定されました。

我々、天橋作事組は、丹後地域に根ざす木造建築技術者、研究者、学識経験者や市民賛同者で組織する特定非営利活動法人です。

文化・気候風土と、人々の暮らしの中から作りあげられたまちなみは、時代の変化と価値観の変容の中で、どんどん壊されていきます。我々は、『自分たちの地域の伝統的な建築財産は自分たちの手と技術と智慧で保全する』そして『先人たちが残した

地域の技と智慧を次世代の地域の担い手に伝承する』という趣旨のもと、技能者の育成と丹後のまちなみ形成の促進および伝統的で魅力ある町づくりの推進に寄与することを目的に、地域に根ざす建築技術者や研究者、そして所有者をはじめ市民賛同者等で活動する団体です。

昨年4月より、NPO法人天橋作事組は「旧三上家住宅」の指定管理者として、活動しています。新型コロナウィルス禍の影響では閉鎖していますが、活用に向けての準備期間だと考え、様々な試みを行っています。

まず、酒造業・廻船業等の用途に合わせた展示を再編成するとともに、ミセの間と

酒造蔵を整理し、休憩スペースと研修スペースを確保。またM&Eによる各部説明を意識したM&Eの整備、丹後から離れた会員や他団体交流が行える機能整備を行いました。

NPO法人天橋作事組 第11回シンポジウムを2022年1月15・16日の2日間にわたって旧三上家住宅にて行いました。地方創生推進事業(COC+)によるちりめんを使った装飾展示、外観及び日本庭園のライトアップ、ライブ鑑賞、文化財活用様々な試みを指定管理期間3年の間に実現させていこうと考えています。

「宮津の魅力を活用する」と題して、酒造蔵の研修スペースにて、地方創生推進事

業(COC+)と天橋高校生、市民の方、宮津市職員、天橋作事組により「宮津市の建築マップ作成」、「四季をとおしての旧三上家住宅の活用」についてワークショップ及びディスカッションを行いました。実際の活用と共に、沢山の方がまちづくりに対し共に考えることが大切なのだと思います。

引き続き市民の再認識を促し、隣接する市町とのリンク、そして若狭―丹後―但馬へ保全―伝承―向上を意識した活動を行い、情報発信をおこない沢山の人が丹後に訪れていただけるよう邁進していきます。

第12回 高校生の「建築甲子園」 舞鶴工業高等専門学校が優勝!!

(一社)京都府建築士会 渉外交流委員会

建築甲子園 審査委員長 片山和俊

本年度12回となる建築甲子園において、京都から選出された、国立舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科3年、磯田倫花さん(監督/尾上亮介教授)の作品「融解と浸透」が優勝とまじくり委員長特別賞の2つのタイトルを受賞しました。全国選手権大会において予選も含め58校87作品から選ばれた過去最高順位の輝かしい賞です。今回のテーマは「地域のくらし」を基本に「これからの地区センター」がサブテー

マとして加えられたこともあって、府内から6点の応募がありました。京都府代表に選出された以外にも、高校生らしく若々しく感受性溢れるアイデアを盛り込んだ提案が多く、京都府予選での審査も苦渋の選択でした。

今後も府内の高校生の頑張りに期待し応援していきたいと思えます。詳細は(公社)日本建築士連合会ホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。

「審査総評」(抜粋)

第1次審査(11月11日)は寄せられた作品が34点と多くないことから、野球に因んでのトーナメント方式ではなく、1作品毎委員が意見交換をしながらの審査とした。その上で委員による投票と討議を経てベスト8を選定した。

第2次審査(12月13日)は、委員全員で8校から提出された映像プレゼンテーションを1作品毎見て意見交換し、その上でベスト4選定の投票を行い、その結果を踏まえて討議し各賞の選考を進めた。投票の結果京都府舞鶴工業高等専門学校「融解と浸透」が満票となり、どの委員からの異存もなく優勝に決定した。

優勝の作品は、他を圧するような強さは

※右の審査総評は、(公社)日本建築士会連合会のホームページから抜粋したものです。

「祝辞」

2021年に、公益社団法人日本建築士会連合会と京都府建築士会が共催する、第12回高校生の「建築甲子園」が開催されましたが、京都府から出場した2校6チームの中で、舞鶴工業高等専門学校「融解と浸透」チームが見事優勝されました。快挙です。素晴らしい作品を制作された選手の磯田倫花さん、ご指導にあられた監督の尾上亮介教授、お二人を支え、応援されてきた内海康雄校長をはじめとする同校の教職員、生徒のみなさん、関係者のみなさんに対して、まずは心からのお祝いを述べさせていただきます。本当にありがとうございます。また、この作品は、「まじくり委員長特別賞」とのダブル受賞です。重ねてお祝い申し上げます。

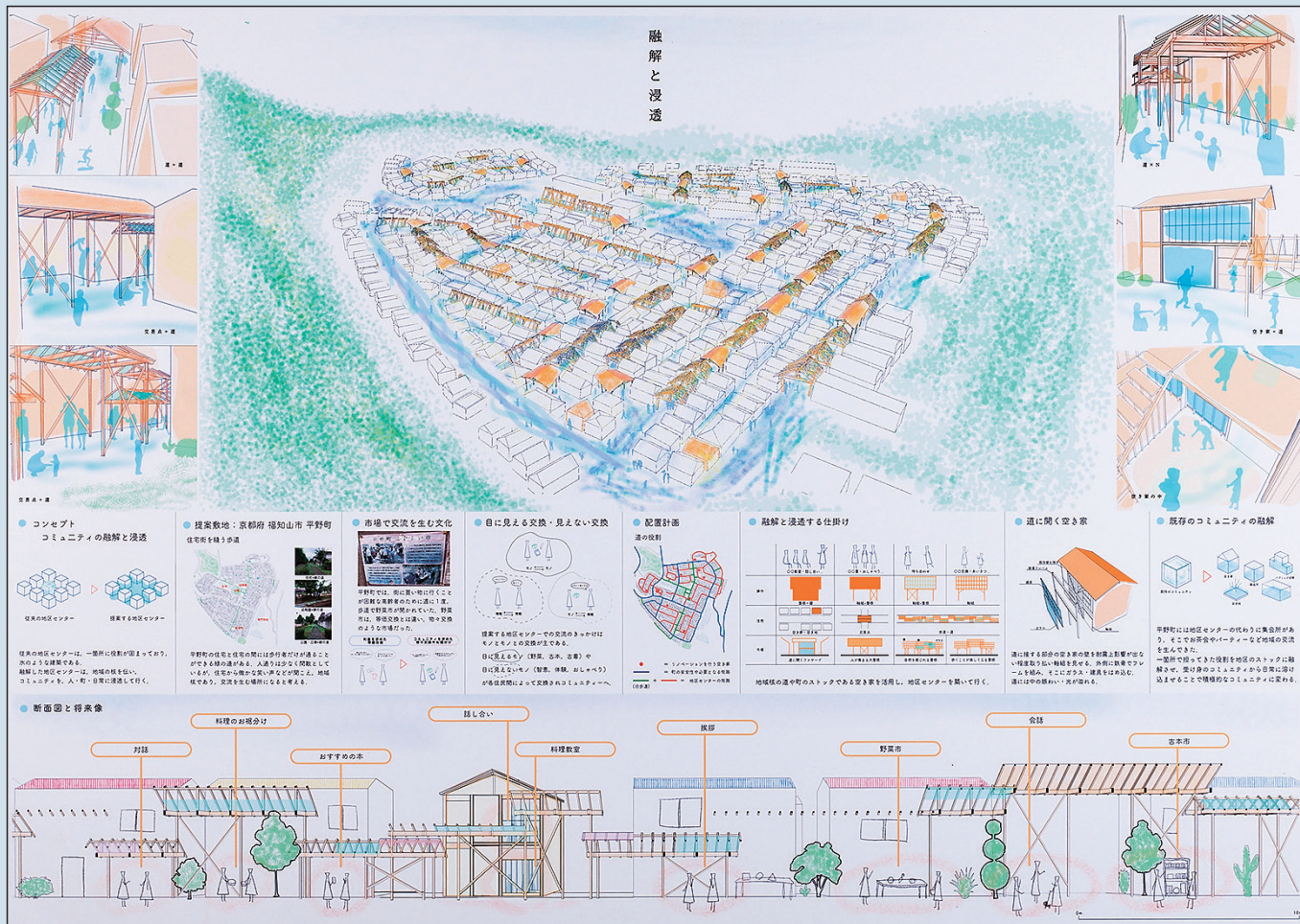
「融解と浸透」と題するこの作品は、建

感じられなかったが、当初から独特な表現が際立っていた。審査を重ね、内容が読み込まれていく内に、作品が丁寧な観察や組立の上に創出されたものであること、作品テーマのごとく魅力が委員側に徐々に浸透して確かなものになったと思われる。平凡な郊外の町中にある住民間のコミュニケーションのあり方と建築の関係が、細やかな観察と確かな構成に基づき姿を見せ、しかもそれが個性豊かに表現されている。優勝を心から喜ぶたい。敢えて言えば、発見し位置付けた建築的空間にもう一步踏み込んだ具体的な提案があればもっと強かったかも知れない。

(一社)京都府建築士会 会長 高田光雄

築やまちづくりがかかえる現代的課題、すなわち、第1に、少子高齢化の進行やコミュニティの衰退などに関わる社会的課題、第2に、建築とまちや自然との関係、既存建築や空家の活用などに関わる環境的課題、第3に、地域の町並みや伝統行事などの継承に関わる文化的課題の全てに対して鋭い問題提起が行われており、「文化的持続可能性を含めたSDGs+(プラス)活動」を推進しようとしている京都府建築士会としてもわが意を得たりと言える優れた提案でした。この提案を評価していただいた片山和俊審査委員長をはじめとする審査委員の皆さまにも感謝いたします。最後に、受賞者のみなさんの更なる活躍を期待申し上げます。





融解した地区センターを目指して

舞鶴工業高等専門学校 磯田倫花

この度、優勝とまちづくり委員長特別賞という素晴らしい賞に、「融解と浸透」を選んでいただき、ありがとうございます。この作品は、担当教員の尾上先生や、デザコン部の人たちのたくさんの方の助けや支えによって完成させることができました。

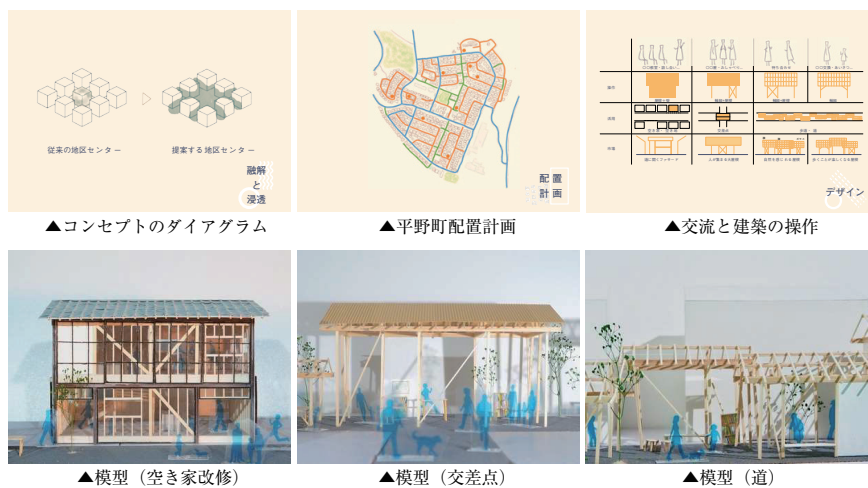
「融解と浸透」は、福知山市の平野町を対象に、道を利用した地区センターの提案です。タイトルの通り、「融解と浸透」をコンセプトに、従来の地区センターは一箇所に役割が固まっている氷のような建築だと捉え、地域の核を伝って、コミュニティを人・町・日常に浸透していく、融解した地区センターを目指しました。

そこで、元々、平野町の道で地域の人たちが対象の「ふれあい市」という市場の文化に着目し、町に張り巡らされている道を伝い、交流の規模に合わせた建築の操作を行って、地区センターが融解・浸透していく建築を提案しました。

一昨年、1年生の時には甲子園に出場しており、その際は奨励賞を受賞しました。今回は、3年生となり優勝を受賞させていただき、成長することができたと思います。

今後は、建築の勉強に励み、将来の夢に向かって突き進みたいと思います。

この度は、本当にありがとうございます。





行永家住宅の床刺し

舞鶴支部 支部長 西井正志

昭和五十年代のいつ頃だったか、「近くにある江戸時代に建てられた民家が公開されている」とのことで、早速見に行きました。事前の情報もなしに行ったのですが、座敷まで入って天井を見上げ、「まてよ、これは床の間の方向に竿が向かう竿縁天井だな。」と気が付き、私が駆け出しで木造建築がまだよく解らない頃、大工さんが「床刺しはタブーやで。」と言っていたのを思い出しました。その場におられた当主の説明でも、「武士が切腹する部屋の竿縁天井が床刺しになっているので縁起が悪い。」「でも、なぜ民家で床刺しなのか理由はわからん。」とのことでした。

よって建築されました。住宅は主屋を敷地北寄りに配し、これを囲むようにして木屋（離れ）、米蔵、道具蔵、味噌蔵、新蔵が立ち並んでいます。主屋は、間口九間（約18メートル）奥行五間（約10メートル）、入母屋造り棧瓦葺きで、四面に棧瓦葺の庇を回し、背面の一部には二階が設けられています。主屋の土間の梁組は、丹後東部地方の農家に見られる六本の大梁を互い違いに組む「六本組」と呼ばれているものです。現存する瓦葺き農家として、丹後地方で最も古く、高い質を持った建物です。半解体修理工事を経て、今でも個人の住居です。当主は高齢で他所に住んでおられますが、保存会の皆様によって維持管理されています。毎年秋に一般公開され、当主の話を聞くことができます。



玄関



床刺しの竿縁天井



六本組

数年振りに、バイオリニストの友人の家を訪ねることにしました。友人宅には、小学三年生の子供がいて、あまりテレビを見ない家庭だからでしょうか、小学校に上がる前から、大人の会話にきちんと参加できる興味深い子供でした。

私はこの子と話すのがとても好きで、友人に会うのも楽しみのひとつですが、久しぶりにあった彼が、どのように成長しているのか、それも会う楽しみのひとつもありました。

数年前に会ったときはコロコロしていたFちゃんは、すらりとした好奇心あふれる少年に成長していました。親の仕事の音楽には全く興味がないうで、モノづくりが大好きなのだとか。毎年の夏休みの自由課題で何を作るかというのが彼の最重要事項のようで、二年生と三年生の自由課題で作った木のピストルや帆船の模型を見せてもらいましたが、これがないかなかのもの。まだほど遠い夏休みに何をつくるかも決めていよう、現在、図面を描きながら構想中とのこと。

自分の作った作品をとてども丁寧な解説してくれたので、「家の模型を作ったり



することに興味ある？」と尋ねると、「どうやって家は建てられるのですか。」と真面目な顔をして、いきなり敬語で質問してきました。自分で考えて物を作るのがとても好きなので、家や家具を作るのに大変興味があるのだそうです。友人は音楽に興味を持って欲しいのかもしれないませんが、人手不足を日々嘆いている私としては、子供とはいえ、こういう人材が喉から手が出るほど欲しいと思うのです。

（大喜書店 岡田良子）

【やさしい文学レッスン 「読み」をふかめる20の手法】

インターナショナルで国際バカロレアの文学教師を勤める著者が、文学作品をより深く味わうための「読み」の手法を二十に分けて解説。



著者：小林真大
発行：雷鳥社
定価：2,090円(税込)

大喜書店
京都市下京区麩屋町五条上ル下鱗形町563番2
TEL：075-353-7169
OPEN：12:00～18:30 水曜日定休
(土・日・祝日は11:00～)
京阪・清水五条駅から徒歩5分

「京都だより」作品紹介ギャラリー

あなたの作品を広く紙面で紹介してみませんか？

本会では会誌「京都だより」に、会員の作品紹介ページを設けています。
建築、インテリア、ランドスケープなど、みなさまの個性あふれる作品をお待ちしております。

掲載に関して

- 募集対象は（一社）京都府建築士会会員が設計もしくは施工に携わったものとします。
- 掲載料は無料ですが、広報編集委員会にて選考の上、掲載させていただきます。応募作品多数の場合等は、掲載できないこともありますのでご了承下さい。
- 写真の撮影者名は必ず付記願います。写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて対応願います。
- 掲載頁数は原則として1頁とします。
- 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いすることがあります。
- 作品の掲載順及び紙面レイアウトを含む全体の構成は広報編集委員会にて担当します。
- 概要及び説明文はメールで送付願います。

提出資料

- 写 真／外観、内観等 3、4 枚。
画像解像度 400 dpi 以上推奨。
デジカメ撮影の場合は 1 メガバイト以上を目安。
プリントの場合は 2L サイズ程度。
- 概 要／作品名称、所在地、建築主、設計者、施工者、用途、工期、建築面積、延床面積、構造規模。
- 説明文／作品に関する考え方を 400 字以内にとめてください。
- 設計図書／選考用として平面、立面、断面、その他。

原稿期日及び送付先

- 期 日／毎月 25 日
- 送付先／（一社）京都府建築士会事務局
「京都だより 作品紹介」係

編 集 後 記

令和も 4 年目に入りました。刻の経つのははやいですね。今年もまだ、COVID-19 の変異株の出現が続く中で、まったく予断のない状況が続いていますが、早く「マスクなしの生活がしたい！」

ところで、今はマンション暮らしですが 2017 年から 2020 年にかけて、築 50 年ほどの木造戸建てで生活しました。北向きの家だったので、夏、1 階の部屋は暑く感じ出すのがマンションより時期が遅く、冬は物凄く寒かったです。マンションに戻る時、リフォームしたのですが、夫の反対を押し切りベランダのある南向きの LD に明り障子を入れました。体感的に、カーテンより断熱効果が上がった気がしています。また、サッシも障子も閉めきっていると、カーテンより明るくて、外の騒音もマシな気がします。

気のせいかもしれんけど……

（徳光都妃子）

内部は中央の広間の周囲に各室が配される平面形式で、かつての接客空間には多様なデザインが展開されている。ロココ？ ネオクラシック？ アールヌーボー？ かなと思うと上層階には書院造まであり、見飽き

円山公園に面して建つ長楽館は、日本初の紙巻煙草「サンライズ」で財をなした、明治のたばこ王・村井吉兵衛の別邸、迎賓館として 1909（明治 42）年に完成した。設計者はアメリカ人、ジェームズ・マクドナルド・ガーディナー。煉瓦造 3 階建、天然スレート葺。外壁は花崗岩と黄褐色のタイルで構成され、ルネサンス様式を用いた外観は、京都にありながら全く和の匂いが感じられない堂々たる西洋館である。

因みに東京の本邸は、国会議事堂のある永田町の丘と谷を隔てて山王社のある丘にあった。広大な書院造の日本建築は武田五一の設計で質の高いものであった。村井邸は解体されたが、その中心部分は比叡山に運ばれ、延暦寺の大書院として再建され、現在に至っている。



長楽館

表紙のつづき

戸田建設（株）大阪支店建築設計室 林 伸昭

ることがない。

スケッチは主玄関のある円山公園側ではなく、八坂神社の南楼門を左手に見て、大谷祖廟の参道北側にある道から描いてみた。絵にしてみると何処か西洋の街並みのようでもあるが、これも確かに京都の風景である。

春は すぐそこに。

総合資格学院は 京都府/全国合格実績 **No.1**

令和3年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,765名中 / 当学院当年度受講生1,986名 全国合格者占有率52.7%

京都府のストレート合格者の**6割以上**は当学院の当年度受講生！

令和3年度 1級建築士 学科+設計製図試験

京都府 ストレート 合格者占有率

京都府ストレート合格者33名中 / 当学院当年度受講生21名

63.6%

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に沿って掲載しております。 ※全国/都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和3年度1級建築士学科試験に合格し、令和3年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和3年12月30日現在)

京都府の合格者のおよそ**6割**は当学院の当年度受講生！

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

京都府 合格者占有率

京都府合格者79名中 / 当学院当年度受講生47名

59.5%

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

速報 **パッチリ** 対応してました!

当学院では、**社会情勢・試験分析・最新技術** など
様々な要素を徹底分析し、パッチリと課題に反映!
この対応力が **No.1** の理由です!

詳しくはこちら!!

令和4年度はより多くの受験生のみなさまを合格へ導けるよう 全力でサポートしてまいります!

令和4年度 1級建築士 学科試験
全国 合格者占有率 **目標**

100%

総合資格学院 学院長 岸 隆司

京都校 京都市下京区四条通西洞院東入郭巨山町18番地 ヒラオカビル 6F TEL.075-253-0481

福知山校 福知山市厚東町208番地 FM-Eビル 1F TEL.0773-25-0511

スクールサイト www.shikaku.co.jp コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp 総合資格 検索 Twitter ⇒ @shikaku_sogo LINE ⇒ 「総合資格学院」 Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!

1級・2級 建築士 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 建築設備士 1級・2級 管工事施工管理技士 1級・2級 建築施工管理技士 1級・2級 土木施工管理技士 1級 造園施工管理技士 宅地建物取引士 インテリアコーディネーター 賃貸不動産経営管理士

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ● 近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION

株式会社 京都確認検査機構

Kind (親切) Open (明快) Certain (確実) Immediate (迅速)

■ 業務内容:

- 建築確認 (事前審査有)・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》(業務区域: 近畿2府4県)
- 住宅金融支援機構《フラット35 (適合証明業務)》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画 (技術的審査)
- 低炭素建築物新築等計画 (技術的審査)
- 建築物エネルギー消費性能確保計画 (省エネ適合性判定)

■ 業務区域: 京都府全域

■ 手数料: 当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。

■ 営業時間・休業日

◆ 営業時間 午前9:00~午後5:30

◆ 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆

(年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします)

● 土曜日も現場検査のみ対応しておりますが、検査の希望につきましては検査部にご相談ください。

〒604-0931
京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階

TEL: 075-256-8980 審査部
075-256-8981 検査部
075-256-8982 構造部
075-256-8984 評価部
FAX: 075-256-8985 審査・構造部
075-256-8986 検査・評価部

● ホームページ <http://koci.co.jp/>
● Eメール sinsa@koci.co.jp

~ご利用をお待ちしております~

契約駐車場 (新榎木町沿コインパーキング・市営御池地下駐車場) については駐車券を配布しております。

